

あたりまえではないこと

静岡県立吉原工業高等学校 電気科 3年  
大倉 輝也

日が暮れて部屋が暗くなりはじめたので、私は家族のいるリビングに向かった。キャンプで使うような大きいランタンを押し入れから取り出し、なぜかどきどきしながらその時が来るのを待っていた。計画停電が行われたのである。冷蔵庫や照明はもちろん、電話やトイレにも影響が出た。改めて、普段の生活に電気が大きく関わっていると知った。その時から私は、節電を意識すると共に、電気について興味を持ち始めた。そして、高校で電気の勉強をしたいと思うようになった。

高校に入り、電気科の一人として電気の勉強を始めた。様々な回路とその特徴から始まり、電気の流れる仕組みや発電方法などを学んだ。学習を進めるにつれて、電気をより身近に感じ、その便利さを実感した。また、感電などの電気の事故の危険についても知ることができた。そして、なぜ私たちは安全に電気をつかえているのか疑問に思った。考えてみれば、体に流れてしまうと短時間で大きな影響を及ぼす電気が危なくはないはずがない。身の回りに電気があるということは、それだけ危険もあるのではないか。

2年生になり、電気の保安業務をしてらっしゃる企業さんにインターンシップでお世話になる機会があった。その中で特に印象に残ったことは、キュービクルの点検である。キュービクルとは、発電所から変電所を通じて送られる高圧の電気を、低圧の電気に変圧する設備を収めた箱のことである。その日は雨が降っていて、屋外での作業は厳しい日だった。機器は水に弱いからである。悪天候の中で私が見たのは、ブルーシートを使って雨を防ぎながら点検をしている姿だった。時々タオルで機器を拭きながら、てきぱきと仕事をする姿を見て、こんな大変な環境の中でも私たちのために取り組んでくださっている方々がいることを知り、感動した。企業の方が「派手ではなく陰で支える仕事だが、とてもやりがいを感じている。」と話してくださり、目立たなくとも人のためにと頑張る姿にあこがれを抱いた。それと同時に、今まで電気をつかえることがあたりまえだと思い、大変な作業をしてくださっている方々のことを意識していなかったことを申し訳なく思った。

電気をつかわない生活はできなくても、節約して生活することはできる。大切な電気を無駄に使わずに、電気をつかえることに感謝して生活していきたい。そして、今後も電気の勉強に打ち込んで、私も多くの人を陰で支える一人になりたい。